

ルートは推測

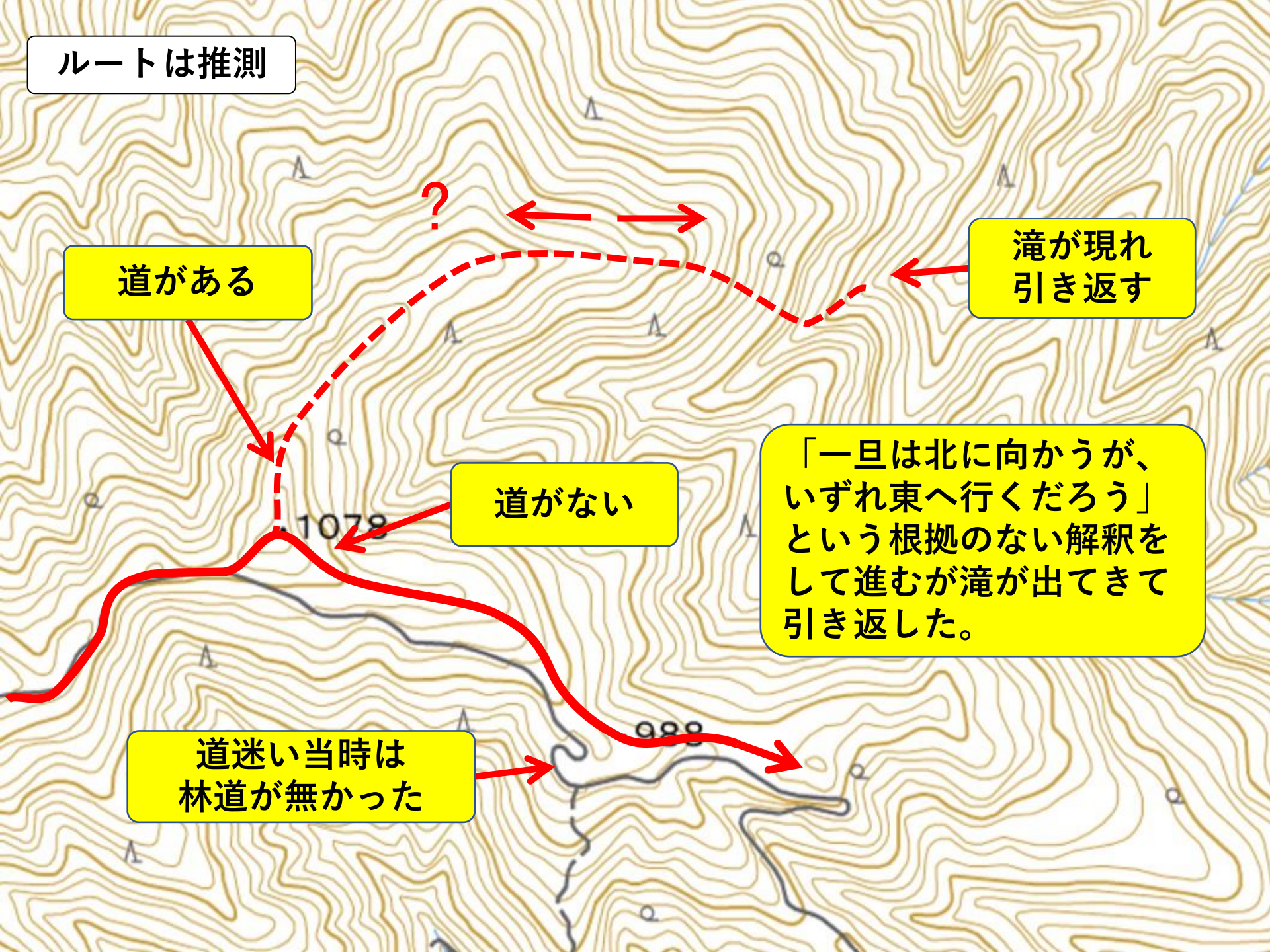
道がある

滝が現れ
引き返す

道がない

「一旦は北に向かうが、
いずれ東へ行くだろう」という
根拠のない解釈をして進むが
滝が出てきて引き返した。

道迷い当時は
林道が無かった



山頂から正しい方向は、藪で踏み跡は全くない。違う方向ではあるが、道はある。「そうか、一旦は北に向かうが、いずれ東へ行くだろう」という根拠のない解釈をして進むが、進路は東に変わらない。

一旦下ると戻る決断はしなかった。下るほどに怪しくなり、尾根からいつしか離れ、谷へ向かって下る斜面はすこぶる急になり、谷底へ下り立った。過去に谷を下降して脱出できた成功体験があるので、沢を下ったが、すぐに大きな滝が現れ、万事休す。ここにきてやっと引き返す決心をした。(HP参照)

道迷い三大地形は「①下りの尾根分岐、②道が急に曲がる、③ピークからの下り」として私が勝手に位置づけ、注意喚起をしています。

この事例もピークからの下りで正しい方向には藪で道が無く、違う尾根の方向に道がありました。

道迷いの不思議は「一旦は北に」と言いつつかなり北に進んでしまい、沢まで降り、滝が出てきてようやく戻ろうと決心をしたところです。尾根を歩かないといけないのに沢が出てくるまで行動を止めることができない。それが「道迷いの心理」なのです。